



地域と学ぶ市大生 パソコンなんでも相談室

ふじしんこ
情報科学研究科(博士前期課程)1年 藤井信吾

本事業は、パソコンやスマートフォンなどの情報機器に関するお悩みや疑問の解決を行いながら、私たちが普段大学で学んでいる情報科学に関する知識を広島市民や地域社会に還元するとともに、私たち自身のコミュニケーション能力の向上を目的としています。2018年度は、普段からお世話になっている大学周辺の受講者を増やすため、本学サテライトキャンパスのほか、地元の沼田公民館でも開催しました。

一般の講習会とは異なり、受講者一人ひとりに学生がマンツーマンで対応し、相談内容を事前に把握した上で、説明資料を作成します。当日はその資料をもとに一緒に操作などを行っていただき、あとで資料を見て一人でも操作できるよう工夫しています。このため、アンケートでは、「とても満足」「満足」といった回答が9割以上を占め、毎回高い評価をいただいています。また、私たち学生側も、教えることで学ぶことができ、コミュニケーション能力の向上の場ともなっています。

また、本事業は2007年から現在まで毎年市内各地で開催している恒例事業となっていますが、マンネリ化させないためにも毎年新しい取り組みにもチャレンジしています。今後も地元の皆様との交流を深め、より身近な存在になれるよう大学での勉学に努めていきたいと考えています。



地域のお祭りに学生も参加 大塚・伴南ふれあい祭り

7月21日(土)に開催された第23回大塚・伴南ふれあい祭りに本学のサークルS2と国際学生寮さくらの学生が参加しました。S2はフルーツポンチを、国際学生寮さくらはかき氷をそれぞれ販売し、大変盛況でした。小中学生や一般の方の出し物や花火大会などさまざまな催し物が行われるこのお祭りは、大塚・伴南地区の大きなイベントのひとつとなっています。

ひだまきひろ
サークルS2として参加した国際学部3年の菱田将広さんの感想

大塚・伴南ふれあい祭りでは、S2として出店させてもらい、地元の方々と交流しました。地域の方と直接交流できる貴重な機会であり、毎回新しい発見を得ています。大塚・伴南地域から多くの方がお祭りに携わられており、テントやステージ設営等の事前準備から当日のお祭りの運営、後片付けまで地元の方が中心となって開催されています。地域主体で行われているということもあり、数多くの参加者が訪れ、毎年大変賑わっています。私達も地域の大学生として、このようなお祭りに携わることができ嬉しく感じるとともに、S2として、さらに地域に還元できることがないか、違った形で地域の発展に貢献することができないか、といった思いも強くなりました。今後も、大塚・伴南地域に関する活動ができればと考えています。



産学連携による地域貢献を目指して 産学連携研究発表会

本学では、研究内容の紹介や教員との交流を通じて、共同研究への発展や研究成果の事業化を目的とする「広島市立大学産学連携研究発表会」を2003年より毎年開催しています。

今回は、近年、いわゆる第4次産業革命と呼ばれるIoT、ビッグデータ、AI等の技術開発に注目が集まっており、また、本学にも関係する研究者が多く在籍していることから、9月21日(金)、まちづくり市民交流プラザにおいて「AI(人工知能)とビッグデータでできること」をテーマに開催しました。(出展42ブース)

第1部の講演会では、(株)イズミで執行役員未来創造推進本部長兼チーフ・デジタル・オフィサーを務められている岩佐朱美氏にご講演いただき、引き続き、本学教員の事例発表を行いました。

第2部のマッチングセッションでは、本学教員の各分野での研究成果の展示を行い、AIおよびビッグデータの研究と活用について、ロボットを使用したデモを行うなど、わかりやすく紹介しました。

発表会の開催により、産学の連携がさらに進み、本学の研究成果が地域の発展に貢献することが期待されます。



平和への願いを込めて光を発信 8.6ピースラインメッセージ

2018年の平和記念日8月6日は、はからずも今年の豪雨災害から一月目でもありました。この日、(株)広島東洋カーブの協力を得て、本学のボランティア学生たちが中心となり、マツダスタジアムから「ピースラインメッセージ」を発信しました。

これは、原爆ドームと同じ高さ(25メートル)に位置する観客席に約1800個のキャンドルを灯し、この特別な日に、広島県内外の方々に向けて光のメッセージを発することで、広島への、平和への想いをらせてもらおうというものです。カーブの本拠地が現在のマツダスタジアムに移って以降、8月6日に試合がない年に行われています。

一つひとつのキャンドルの火は、広島平和記念公園の「平和の灯」、福岡県八女市星野村の「平和の火」から採火した火種から灯されたものです。平和記念公園での採火式には本学学生ボランティアも出席しました。

当日は留学生や研究生も含めた多数の学生ボランティアが参加し、猛暑の中、長時間にわたり準備、点火、後片付けを行い、無事イベントは終了しました。広島東洋カーブからも本年度新入団選手9名が参加し、学生達と共に点火していただきました。



事例でみる市大の地域貢献

「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念としている本学は、広島市の公立大学として、地域と共生し、市民の誇りとなる大学を目指しています。ここでは、本学の地域貢献活動の事例を紹介します。



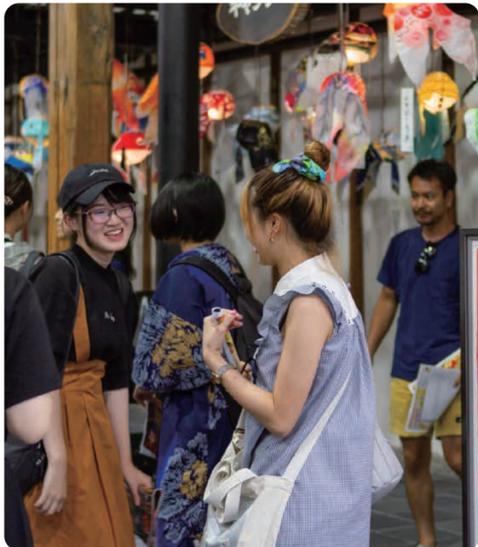
[COC+] 広島市立大学 COC+アートプロジェクト

柳井プロジェクト 「NEW GOLDFISH」

2018年7月～9月に山口県柳井市で行われた第27回柳井金魚ちょうちん祭りに合わせて、デザイン工芸学科1年生44名がやない西蔵にて展覧会「NEW GOLDFISH」を開催しました。

5月に柳井市と大島郡周防大島町の暮らしを学生達が自ら取材を行い、それを基に新たな金魚ちょうちんのデザイン・制作に挑戦しました。柳井市

でのプロジェクトは初めての試みであったため、どのような反応があるか不安ではありましたが、学生達の発想力で作られた作品が会場を彩り来場者を楽しませました。また、期間中には訪れた方々にお気に入りの作品に投票をしていただき、柳井金魚ちょうちんNo.1決定戦を開催し、圧倒的な得票数で富田菜月さんの「金魚まみれ」が学生のデザイン金魚ちょうちん44匹と柳井市のオリジナル金魚ちょうちん1匹を合わせた45匹の頂点に輝きました。8月13日(月)には柳井本祭りにて現地取材を行い、学生10名による金魚ちょうちんプロジェクトチームを立ち上げました。現在ドキュメントブックを制作しており、3月の完成を目指しています。



芸術学部1年 富田菜月「金魚まみれ」

